

なつ なまほうそう
夏だ！ 生放送だ！



ばんぐみ きょく うた なまえんそう
番組の テーマ曲 を歌う チャラン・ポ・ランタンの 生演奏で スタート！
ゲストは、関根 勤さんと すみれさん。テレビの前の 障害者4組とも 中継を
つなぎ、さらに スタジオには 手話通訳や 音声解説をする人も たくさん！
今回の テーマは、「障害者が テレビを 楽しむためには どうすれば いいか」。
ほうそう ほうほう
生放送で いろいろな 方法を ためす！



「テレビを 楽しめない」は さまざまな 問題に つながる？ めざせ！ 脱おいてけぼり

きっかけは、4月に 放送した『テレビの バリアフリー』企画。

「ニュースが わからない」(知的障害がある人)

「フィギュアスケートは 音楽が なっているだけ…」(視覚障害がある人) など、

「テレビを 見るときに 困る」という 意見が、障害者から たくさん 出てきた。

今回も、さまざまな 障害者に 話を 聞いた。

たけうち はじめ しかくしょうがい ぜんもう おんせいかいせつ ふくおんせい き
竹内 一さん（視覚障害・全盲）は、ふだん 音声解説を 副音声で聞いて
テレビを見ている。しかし、解説つきの 番組は まだまだ 少なく、
「たとえば オリンピックの 体操。金メダルで みんなが もりあがっている ときも、
音声解説がないので どんな技か わからない」と 悲しそう。

すみよしけんじ ともみ ふうふ ふたり えーでい いちでいー
また、住吉健司さん・友美さん夫婦（2人ととも A D H D）は、
「耳から 情報を 聞きとれない、聞きとれても 整理しきれない」という 理由で、
いつも 字幕つきで テレビを見ている。
しかし「深夜の アニメには 字幕がない！」と 残念そうだ…。



ちょうかくしょうがいしゃ じまく しゅわ りょうほう いけん
そして 聴覚障害者からは、「字幕と 手話、両方 つけてほしい」という 意見が。
なごや す ろうのひと はなし き にほんご しゅわ べつ げんご
名古屋に住む ろうの人に 話を聞くと、日本語と 手話は 別の言語であるため、
「日本語の 字幕だけでは わかりづらいことも 多い」という。

しょうがく3ねんせい ちょうかくしょうがい かんじ おお き はや
また、小学3年生の ケントくん（聴覚障害）は、「漢字が多く、消えるのも 早い」
という 理由で、字幕を 最後まで 読み切れず、内容が わからないという。
「聞こえる子と くらべて、物事を知る 機会が 限られてしまう」と お母さんは 心配している。



しゅわほうそう もっと おお えぬえいちけー いー にち ぶん
ちなみに、手話放送は、最も多い NHK の E テレでも 1日に 30分くらいしかない。

テレビから 情報^{じょうほう}を得^えられなかったり、テレビを 楽し^{たの}めなかったりすることで、
社会^{しゃかい}と つなが^きる 機会^{きかい}が 少^{すく}なくなる という 問題^{もんだい}も！ 玉木^{たまき}さんも、
「こうした 見えづ^みらい 問題^{もんだい}が、大人^{おとな}に なったときの 格差^{かくさ}に つなが^つる」と 指摘^{してき}した。
どんな 障害^{しょうがい}の ある人も “おいてけぼり” に しない テレビを 考^{かんが}えよう！
ということで、「脱^{だつ}・おいてけぼり」を 宣言^{せんげん}！



実験^{じっけん}1 わら 笑い^{わら}のバリアフリー^{ちやうせん}に挑戦^{せんげん}！

今回は 今^{こんかい}は まず、誰^{だれ}もが 楽し^{たの}める 「お笑い」に 挑^{わら}戦^{ちやうせん}。
ネタを 披^{ひろ}露^ろするのは、寝^ねたきり芸^{げい}人^{にん}の あそどっぐ。
笑い^{わら}の バリアフリー^{じっげん}を 実^{じつげん}現^{げん}するため、いろい^ほろい^うな 方^{ほう}法^{ぽう}を ためした！

まずは 「手話^{しゅわ}の お兄^{にい}さん」。字^じ幕^{まく}だけでは 伝^{つた}わら^ない 表^{ひょう}情^{じょう}、
そして 笑^{わら}いを さそう^{たいせつ}た^まめに 大^{だい}切^{せつ}な 「間^ま」や 「テ^{しゅわ}ンシ^{つた}ョン」を 手^{しゅわ}話^{つた}で 伝^{つた}えるのだ。
さらに、わ^にかり^{ほんご}や^すい 日^に本^{ほん}語^ごにつ^いて 研^{けん}究^{きゅう}す^る 団^{だん}体^{たい}が、ツ^とイ^うッ^たーの 投^{とう}稿^{こう}画^が面^{めん}を使^{つか}って
「やさしい 日^に本^{ほん}語^ごの 字^じ幕^{まく}」を 出^だす 試^しみ^も 行^{おこな}った。



また、全^{ぜん}盲^{もう}の 落^{らく}語^ご家^か・桂^{かつら} 福^{ふく}点^{てん}さん^の 疑^ぎ問^{もん}に ア^あナ^なウ^うン^んサー^が 答^{こた}え^る 副^{ふく}音^{おん}声^{せい}で、
見^みえ^ない^人に 「あそどっぐが どの^かな 格^{かく}好^{こう}を して^いる^か」を 伝^{つた}えて^みた。…結^け果^{っか}は？

聴覚障害のある子どもからは、なんとか“合格”をもらうことができた。
一方、全盲の竹内さんは笑うことができなかったようだ。



実験2 歌のバリアフリーに挑戦!

2つめの企画は、「歌」のバリアフリー。

「歌は好きだけど、歌番組を楽しめない…」という聴覚障害者の声にこたえるための方法を、番組のテーマ曲「夢を運んだアヒルの子」で実験だ!

チャラン・ポ・ランタンの生演奏に、「手話のお兄さん」が加わって、歌詞の世界や、曲の雰囲気を手話で伝える。

さらに歌詞と楽譜をあわせた“字幕”も出してみた。

この曲に込められたメッセージ「みんなちがってよい」という歌詞の部分は、関根さん・すみれさんも手話で参加。障害がある人もない人も、番組テーマ曲の世界を楽しむことができたかな…?



あっという間の30分。今回は、いろいろな方法を実験するもりだくさんの内容だった。“おいてけぼり”になってしまった人はいなかったか?
今後もバリアフリーなテレビについて考えていく必要があるだろう!